

(6) 高知県スギ① (当年生苗・2年生苗)

調査実施年度	平成 30 (2018) 年度
生産者	K 氏 (当年生苗、2年生苗)
植栽場所	高知県宿毛市

【地上部の計測結果】

平均苗長、平均根元径ともに当年生苗の方が2年生苗より小さい値を示した。平均根元径については大きく差が開いていたものの、平均苗長については当年生苗で 32.8cm、2年生苗で 39cm と差は大きくなかった。平均形状比は当年生苗の方が2年生苗より大きかったものの、どちらも 100 以下だった。

表 3-8 計測結果 (高知県\_スギ①)

		当年生苗	2年生苗
標本数 (本)		20	20
苗長 (cm)	平均	32.8	39.0
	標準偏差	3.4	2.5
	最大値	41.5	44.5
	最小値	28.2	34.1
根元径 (mm)	平均	3.7	5.7
	標準偏差	0.3	0.8
	最大値	4.3	8.2
	最小値	3.3	4.3
形状比	平均	88.9	70.0
	標準偏差	10.8	10.5
	最大値	112.2	103.5
	最小値	67.4	47.0

《出荷規格》	
コンテナ :	150cc
2年生苗 :	苗長 : 35cm 上 根元径 : 4.0mm
当年生苗 :	苗長 : なし 根元径 : なし

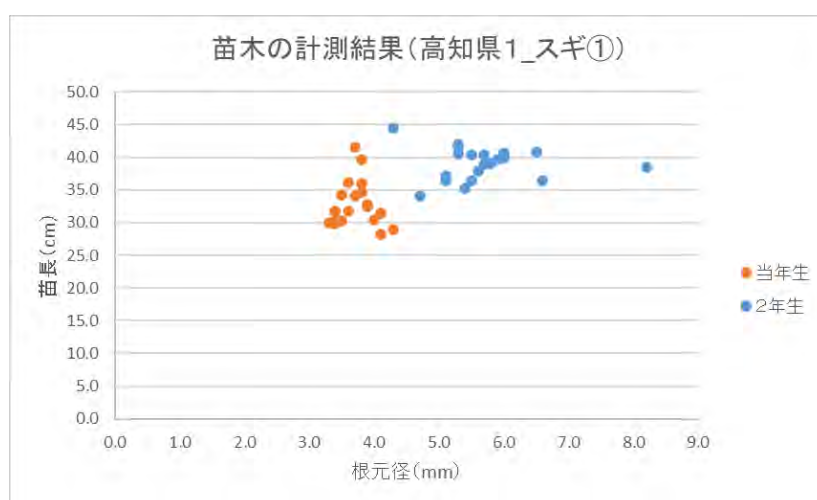


図 3-1 1 計測結果 (高知県\_スギ①)

### 【絶乾重量の計測結果】

当年生苗と2年生苗の各部位の重量（絶乾重）及びT/R率（地上部と根の重量比）を比較した。当年生苗のT/R率は2.4、2年生苗のT/R率は2.4となり、当年生苗と2年生苗で同じ値を示した。

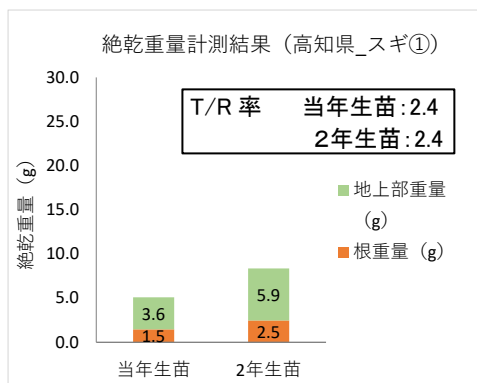


図 3-12 絶乾重量計測結果 (高知県\_スギ①)

### 【根鉢の計測結果】

根鉢の硬度と根鉢に占める根の平均被覆率を根鉢形成の指標として、当年生苗と2年生苗を比較した。当年生苗の根鉢硬度は上部、下部ともに小さく、ほとんど固まっていなかった。当年生苗の根の被覆率は約35%であり、2年生苗と比較して小さかったものの差は大きくなかった。当年生苗の根の到達状況については、根鉢下部へは十分展開していたものの、上部や底部への展開は十分とは言えなかった。以上より、当年生苗の根鉢は根が全体まで十分展開されておらず、根鉢が固まっていないことが分かる。

なお、根鉢表面の白根は、当年生苗では全ての苗で、2年生苗では20本中9本で見られた。

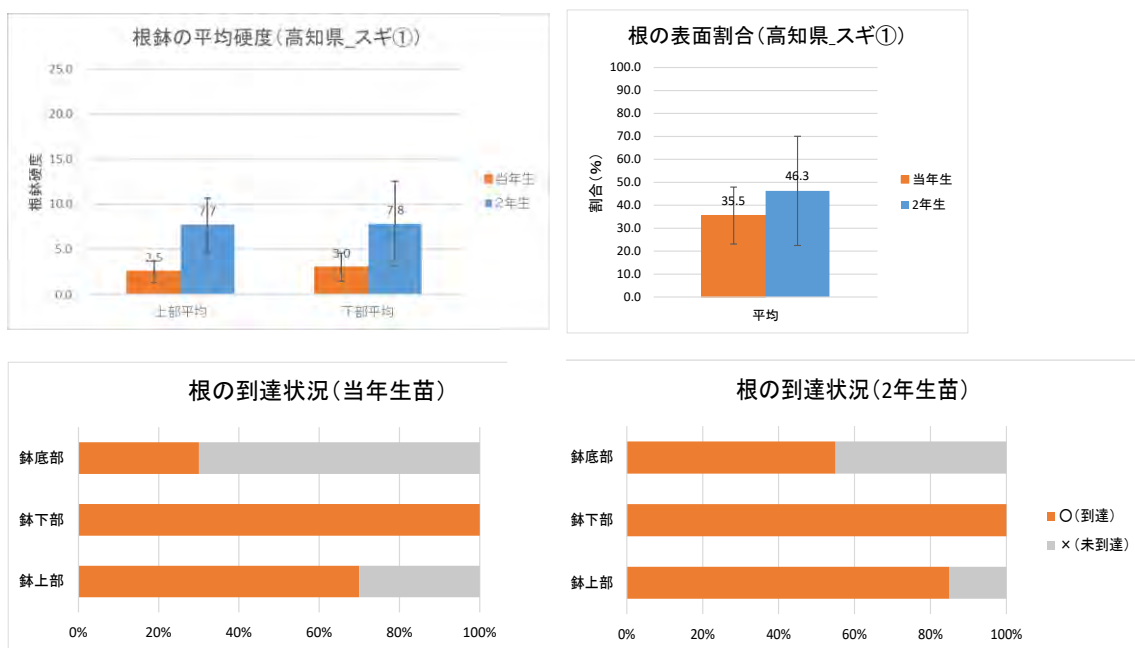


図 3-13 根鉢の計測結果 (高知県\_スギ①)

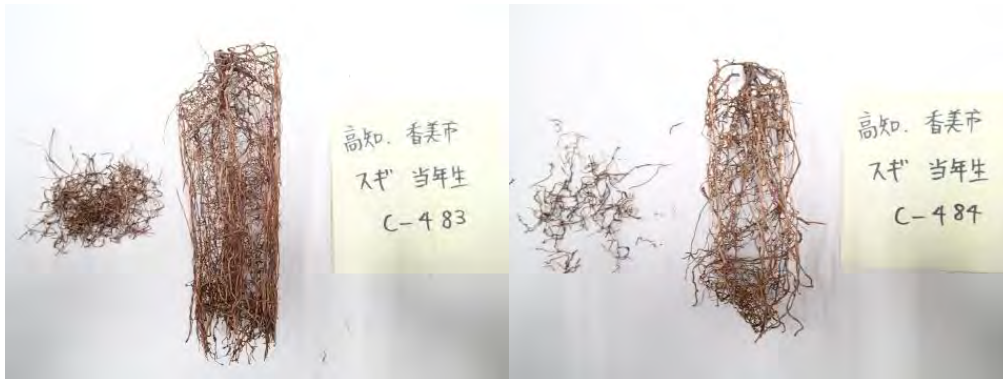


写真 3-8 高知県スギ①当年生苗の状況  
 (写真中のメモの「香美市」は間違い。正しくは「宿毛市」)

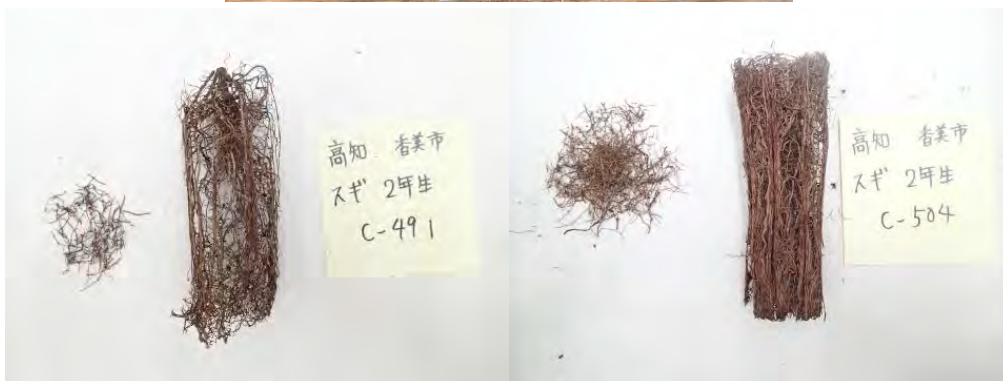


写真 3-9 高知県スギ①2年生苗の状況  
 (写真中のメモの「香美市」は間違い。正しくは「宿毛市」)

(7) 高知県スギ② (当年生苗・2年生苗)

調査実施年度	平成 30 (2018) 年度
生産者	L 氏 (当年生苗、2年生苗)
植栽場所	高知県香美市

高知県スギ②の当年生苗については、生産初期にクロバネキノコバエの幼虫による食害が発生し、再度、播種より実施し直した。そのため生産者が当初予定していた期間よりも3ヶ月程度短い生育期間となった。それに伴い、出荷の規格が当初予定の35cm上から20cm上へと変更された。

【地上部の計測結果】

当年生苗の平均苗長、平均根元径は生育期間の短縮の影響を受けて小さい値を示した。特に平均苗長については約20cmと非常に小さかった。平均形状比は当年生苗で73.2、2年生苗で92.2と当年生苗の方が小さくなったが、これも生育期間の短縮による影響である。

表 3-9 計測結果 (高知県\_スギ②)

		当年生苗	2年生苗
標本数 (本)		20	20
苗長 (cm)	平均	20.0	44.8
	標準偏差	2.3	2.4
	最大値	26.0	50.7
	最小値	17.2	41.1
根元径 (mm)	平均	2.7	4.9
	標準偏差	0.2	0.5
	最大値	3.1	6.0
	最小値	2.1	4.0
形状比	平均	73.2	92.2
	標準偏差	10.0	12.6
	最大値	101.4	118.3
	最小値	55.5	71.8

《出荷規格》	
コンテナ :	150cc
2年生苗 :	苗長 : 35cm 上 根元径 : 4.0mm
当年生苗 :	苗長 : 20cm 上 根元径 : なし

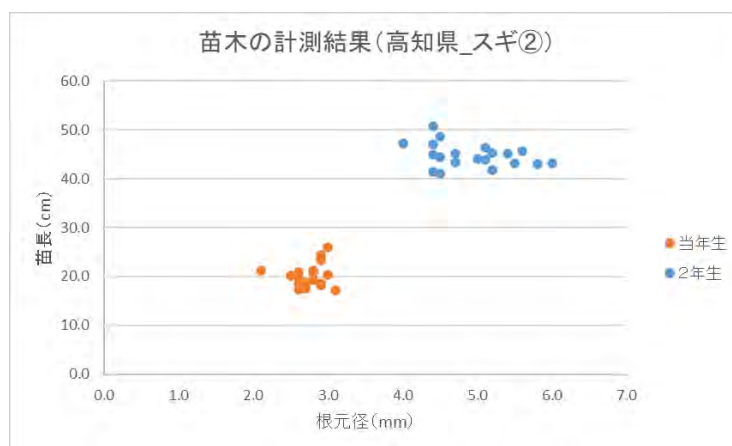


図 3-14 計測結果 (高知県\_スギ②)

### 【絶乾重量の計測結果】

当年生苗と2年生苗の各部位の重量（絶乾重）及びT/R率（地上部と根の重量比）を比較した。クロバネキノコバエの幼虫による食害被害により、当初予定していた期間での生育ができなかったため、当年生苗の地上部、根ともに絶乾重量は2年生苗と大きな差が生じており、非常に小さい値を示した。T/R率については、当年生苗で2.9、2年生苗で3.1とほとんど変わらなかった。

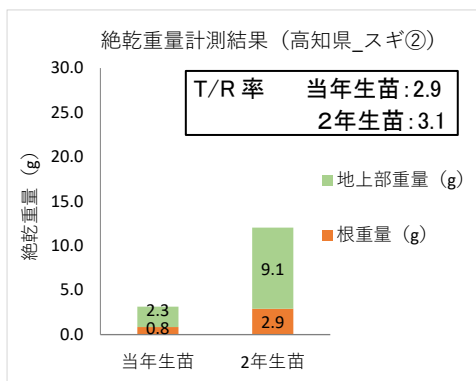


図 3-15 絶乾重量計測結果 (高知県\_スギ②)

### 【根鉢の計測結果】

根鉢の硬度と根鉢に占める根の平均被覆率を根鉢形成の指標として、当年生苗と2年生苗を比較した。根鉢の形成についても生育期間の短縮の影響を受けており、2年生苗では根鉢硬度、根の割合ともに十分と言える値だったものの、当年生苗ではどちらも非常に小さい値を示しており、根鉢が十分形成されていないことが分かる。当年生苗の根の到達状況についても同様であり、特に根鉢下部と根鉢底部へはほとんどの当年生苗が展開していなかった。以上より、当年生苗の根鉢はほとんど形成されていないことが分かる。なお、根鉢表面の白根は、当年生苗と2年生苗ともに全ての苗で見られた。

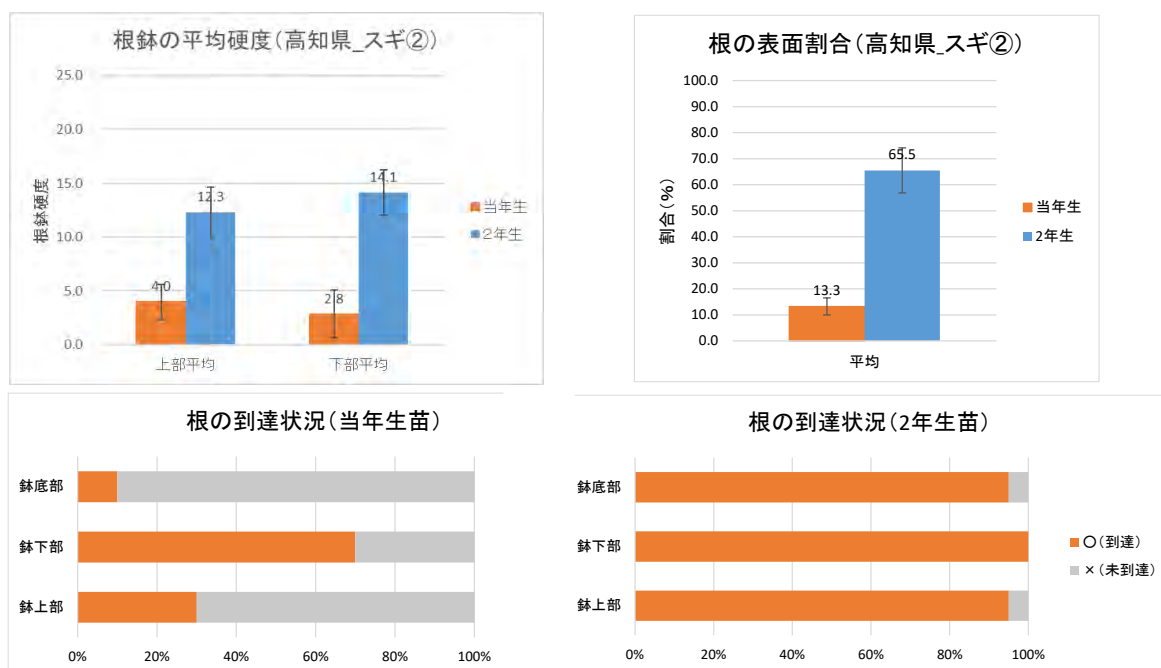


図 3-16 根鉢の計測結果 (高知県\_スギ②)

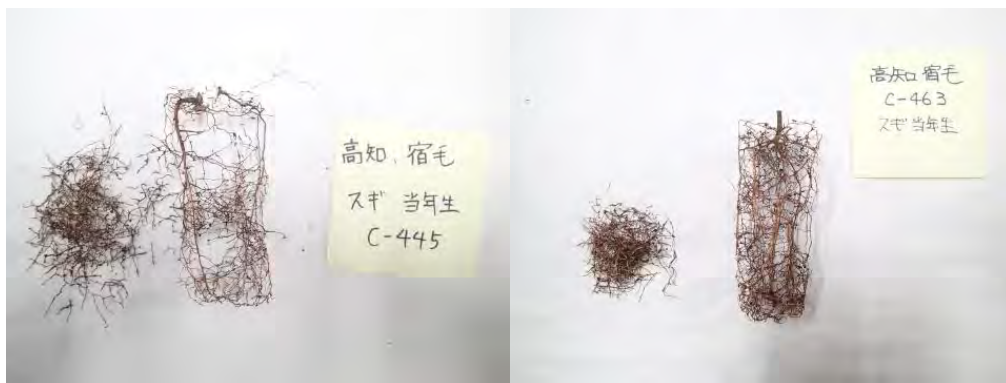


写真 3-10 高知県スギ②当年生苗の状況  
 (写真中のメモの「宿毛市」は間違い。正しくは「香美市」)



写真 3-11 高知県スギ②2年生苗の状況  
 (写真中のメモの「宿毛市」は間違い。正しくは「香美市」)

(8) 高知県スギ③ (当年生苗)

調査実施年度	令和元 (2019) 年度
生産者	L氏 (当年生苗)
植栽場所	高知県北川村

高知県北川村の調査地には当年生苗のみが植栽されたため、サンプリング調査についても当年生苗のみ実施した。

【地上部の計測結果】

当年生苗のみの調査であり、2年生苗との比較はできないが、平均地際径が約 5mm となっており、ばらつきは見られるものの当年生苗としては十分な大きさであると言える。平均形状比についても約 70 となり、当年生苗としては低い値であると言える。

表 3-10 計測結果 (高知県\_スギ③)

		当年生苗
標本数 (本)		20
苗長 (cm)	平均	35.2
	標準偏差	1.9
	最大値	38.2
	最小値	32.3
根元径 (mm)	平均	5.0
	標準偏差	0.5
	最大値	6.2
	最小値	4.2
形状比	平均	70.4
	標準偏差	7.2
	最大値	82.3
	最小値	52.6

《出荷規格》	
コンテナ :	150cc
当年生苗 :	苗長 : 20cm 上
	根元径 : なし

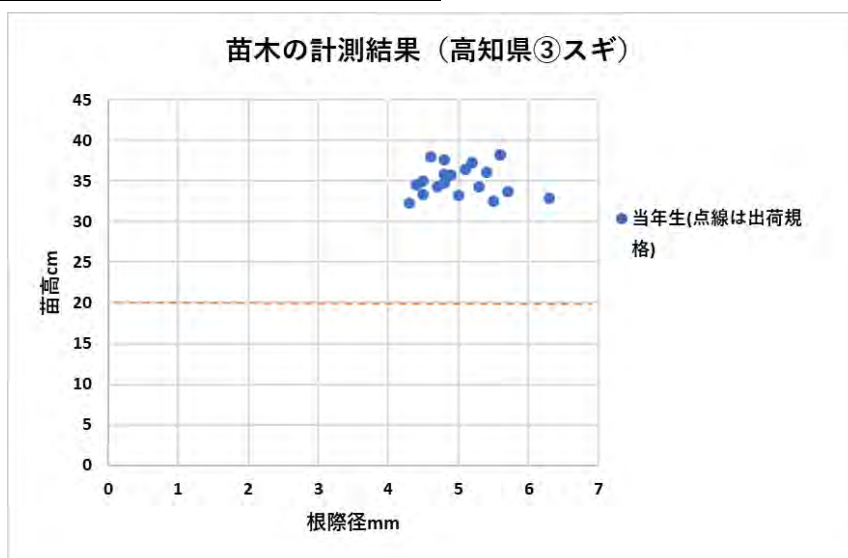


図 3-17 計測結果 (高知県\_スギ③)

### 【絶乾重量の計測結果】

当年生苗の各部位の重量（絶乾重）及び T/R 率（地上部と根の重量比）を以下に示す。根の絶乾重量は 3.0g と大きい値を示し、その結果として T/R 率は 2.0 と低い値となった。

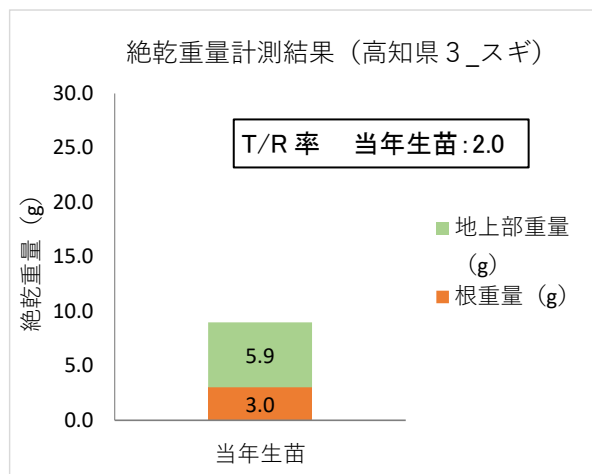


図 3-18 絶乾重量計測結果 (高知県\_スギ③)

### 【根鉢の計測結果】

根鉢の硬度和根鉢に占める根の平均被覆率を、根鉢形成の指標として以下に示す。根鉢の硬度は上部、下部ともに 10 を超えており、十分な硬さを持っていると言える。根の被覆率は 77% を超え、こちらも十分な値である。根の到達状況についても、全ての苗木が根鉢の下部、上部及び底部へ展開していた。以上より、当年生苗の根鉢は十分形成されていると言える。

なお、根鉢表面の白根は全ての苗で見られた。

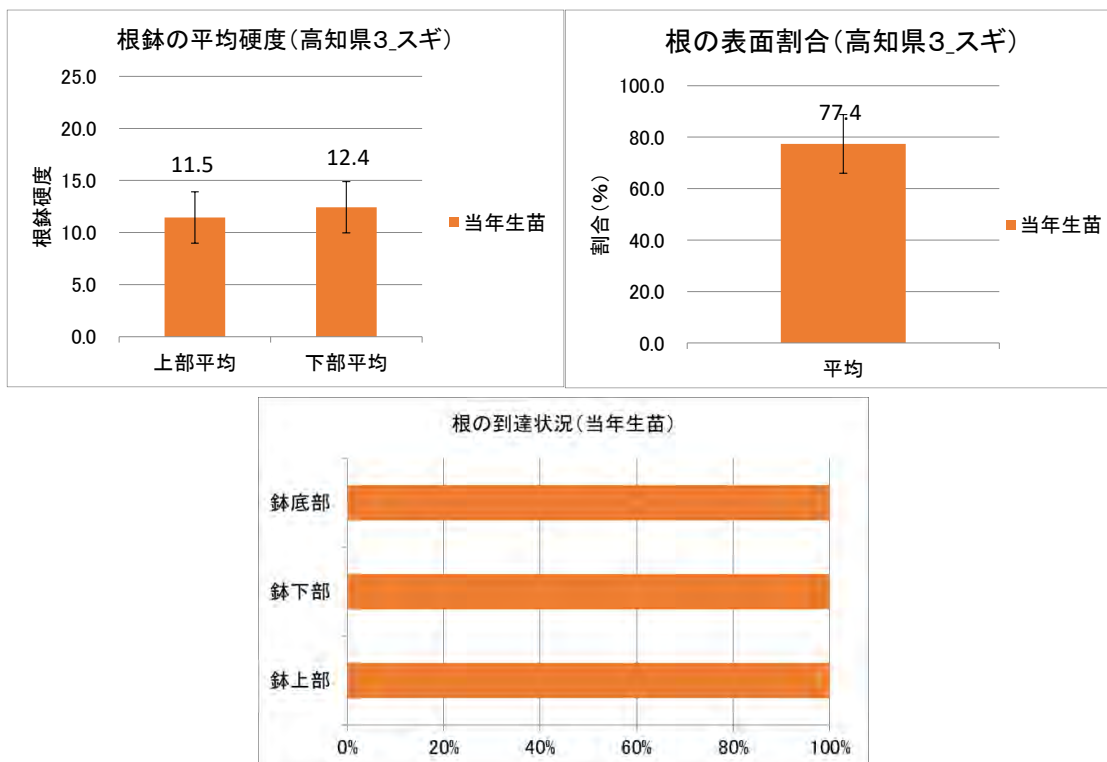


図 3-19 根鉢の計測結果 (高知県\_スギ③)



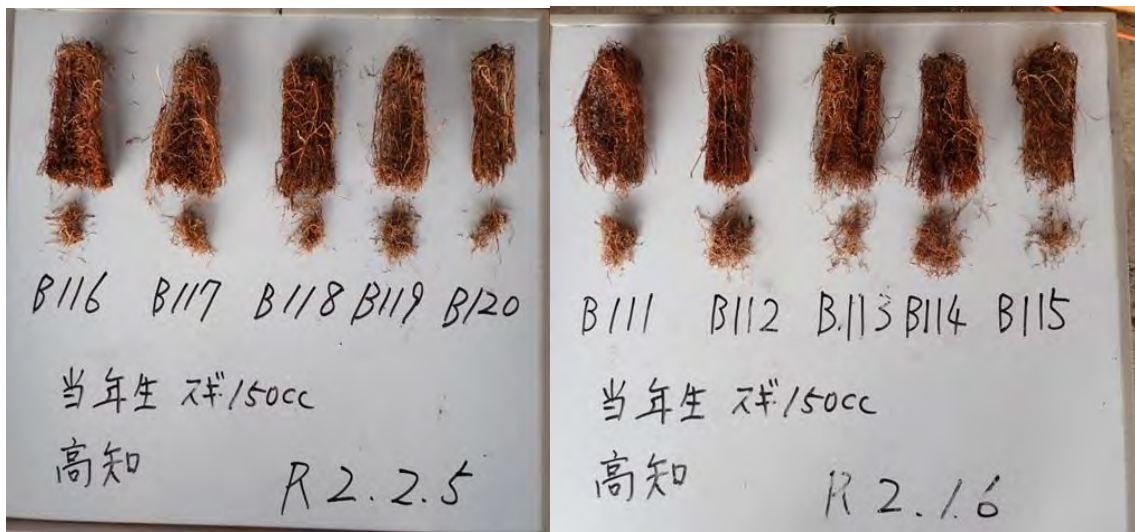


写真 3-12 高知県スギ③当年生苗の状況

(9) 熊本県スギ（挿し木）（当年生苗）

調査実施年度	平成 30（2018）年度
生産者	M 氏（当年生苗）
植栽場所	熊本県人吉市

熊本県スギについては、挿し木で生産された唯一の苗木であり、またコンテナの容量は 300cc が用いられている。なお、2 年生苗は生産されていないため、当年生苗のみのデータとなる。

【地上部の計測結果】

挿し木で生産されているため、平均苗長、平均根元径ともに当年生苗としては大きい値を示している。

表 3-11 計測結果（熊本県\_スギ）

		当年生苗
標本数（本）		20
苗長 (cm)	平均	54.1
	標準偏差	3.4
	最大値	62.3
	最小値	47.0
根元径 (mm)	平均	7.2
	標準偏差	0.8
	最大値	9.8
	最小値	5.6
形状比	平均	76.5
	標準偏差	8.0
	最大値	95.4
	最小値	55.4

《出荷規格》	
コンテナ：	300cc
当年生苗：	苗長：40cm 上
	根元径：6.0mm

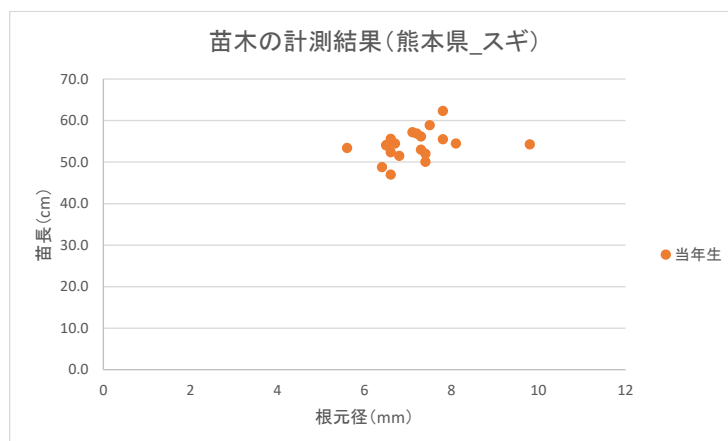


図 3-20 計測結果（熊本県\_スギ）

### 【絶乾重量の計測結果】

当年生苗の各部位の重量（絶乾重）及び T/R 率（地上部と根の重量比）を以下に示す。挿し木で生産されているため、地上部の絶乾重量は 24.3g と非常に大きい。そのため T/R 率も 5.4 と大きい値を示した。

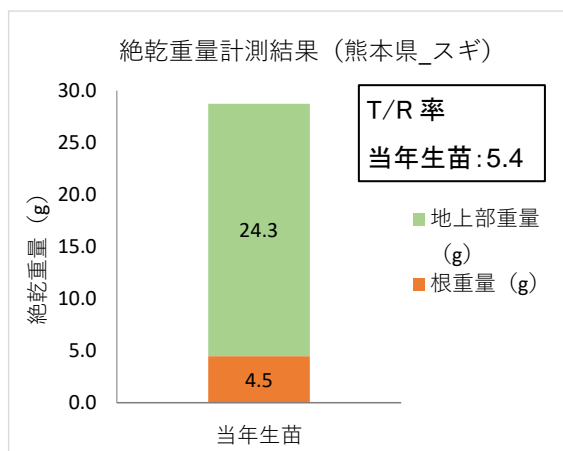


図 3-2 1 絶乾重量計測結果 (熊本県\_スギ)

### 【根鉢の計測結果】

当年生苗の根鉢の硬度と根鉢に占める根の平均被覆率を根鉢形成の指標として以下に示す。当年生苗の根鉢硬度は、下部では 12.3 と十分と言えるものの、上部では 5.7 と低い値を示しており、根鉢下部と比較して上部の硬さが十分でないと言える。根の到達状況についても同様の傾向が見られ、全ての苗木が根鉢下部までは根を到達させていたものの、根鉢上部までは到達させていなかったことが分かる。根の被覆率については約 35% となった。

なお、根鉢表面の白根は、当年生苗の全ての苗で見られた。

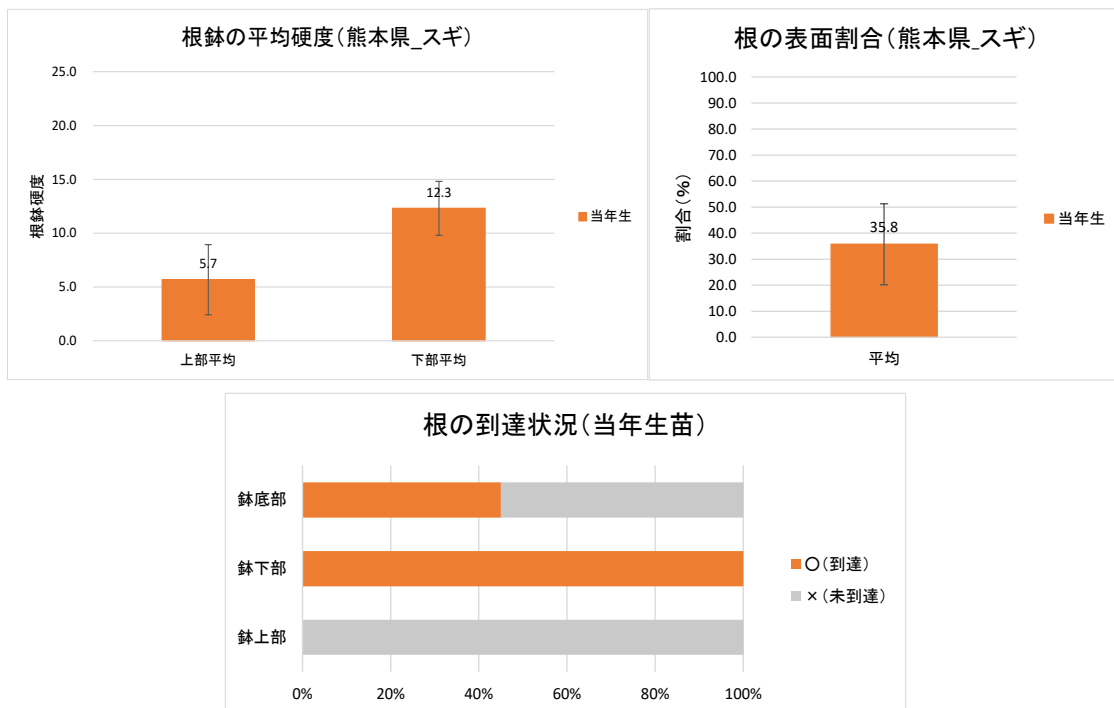


図 3-2 2 根鉢の計測結果 (熊本県\_スギ)

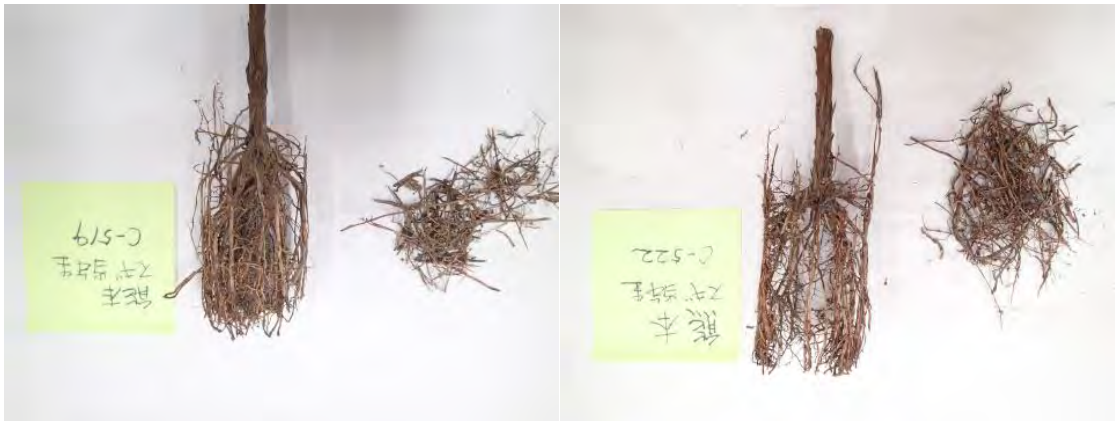


写真 3-13 熊本県スギ当年生苗の状況

### 3-2-3. 苗木のサンプリング調査結果（ヒノキ）

#### （1）島根県ヒノキ（当年生苗・2年生苗）

調査実施年度	平成 30（2018）年度
生産者	I 氏（当年生苗、2年生苗）
植栽場所	島根県飯南町

#### 【地上部の計測結果】

平均苗長、平均根元径ともに当年生苗の方が2年生苗より小さい値を示した。平均形状比は当年生苗と2年生苗で同程度であり、どちらも100を僅かに超えていた。

表 3-1 2 計測結果（島根県\_ヒノキ）

		当年生苗	2年生苗
標本数（本）		20	20
苗長 (cm)	平均	33.0	48.1
	標準偏差	4.4	7.8
	最大値	40.7	62.1
	最小値	25.5	36.2
根元径 (mm)	平均	3.2	4.8
	標準偏差	0.6	0.7
	最大値	4.5	5.9
	最小値	2.3	3.4
形状比	平均	105.0	102.1
	標準偏差	19.7	17.1
	最大値	162.8	134.1
	最小値	75.7	65.8

《出荷規格》	
コンテナ：	150cc
2年生苗：	苗長：なし
	根元径：なし
当年生苗：	苗長：なし
	根元径：なし

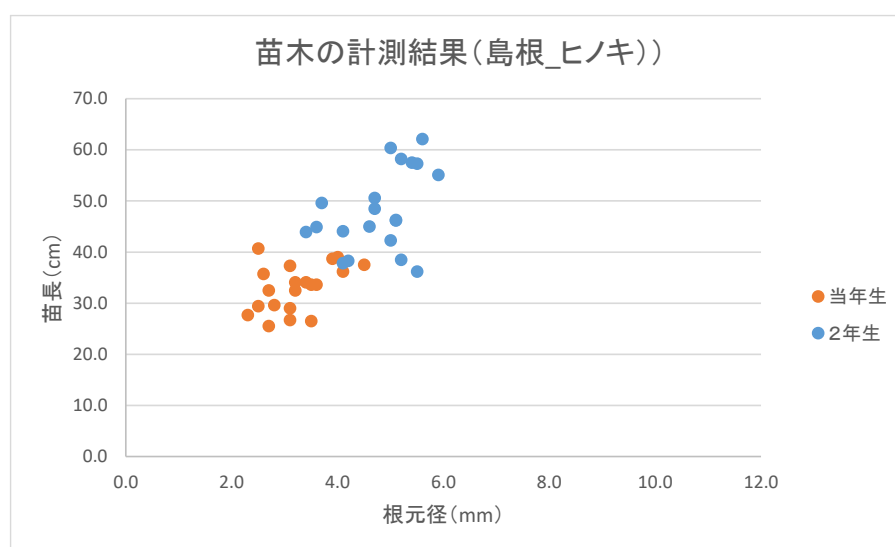


図 3-2 3 計測結果（島根県\_ヒノキ）

### 【絶乾重量の計測結果】

当年生苗については、乾燥に失敗したためサンプル数が9個となった。

当年生苗と2年生苗の各部位の重量（絶乾重）及びT/R率（地上部と根の重量比）を比較した。当年生苗のT/R率は2.3、2年生苗のT/R率は3.2となり、当年生苗の方が低い値を示した。

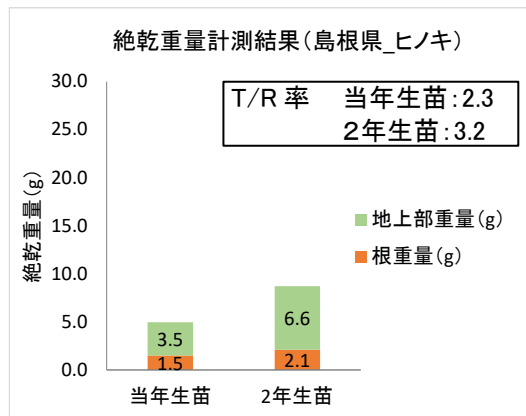


図 3-2 4 絶乾重量計測結果 (島根県\_ヒノキ)

### 【根鉢の計測結果】

根鉢の硬度と根鉢に占める根の平均被覆率を根鉢形成の指標として、当年生苗と2年生苗を比較した。当年生苗の根鉢の硬度は上部、下部ともに10に近い値だった。当年生苗の根の被覆率は42.3%と、こちらも2年生苗と大きな差は無かった。当年生苗の根の到達状況については、根鉢下部と根鉢上部へ十分展開していた。以上より、当年生苗の根鉢は、2年生苗ほどではないが比較的形成されていると言える。

なお、根鉢表面の白根は、当年生苗と2年生苗ともに全ての苗で見られた。

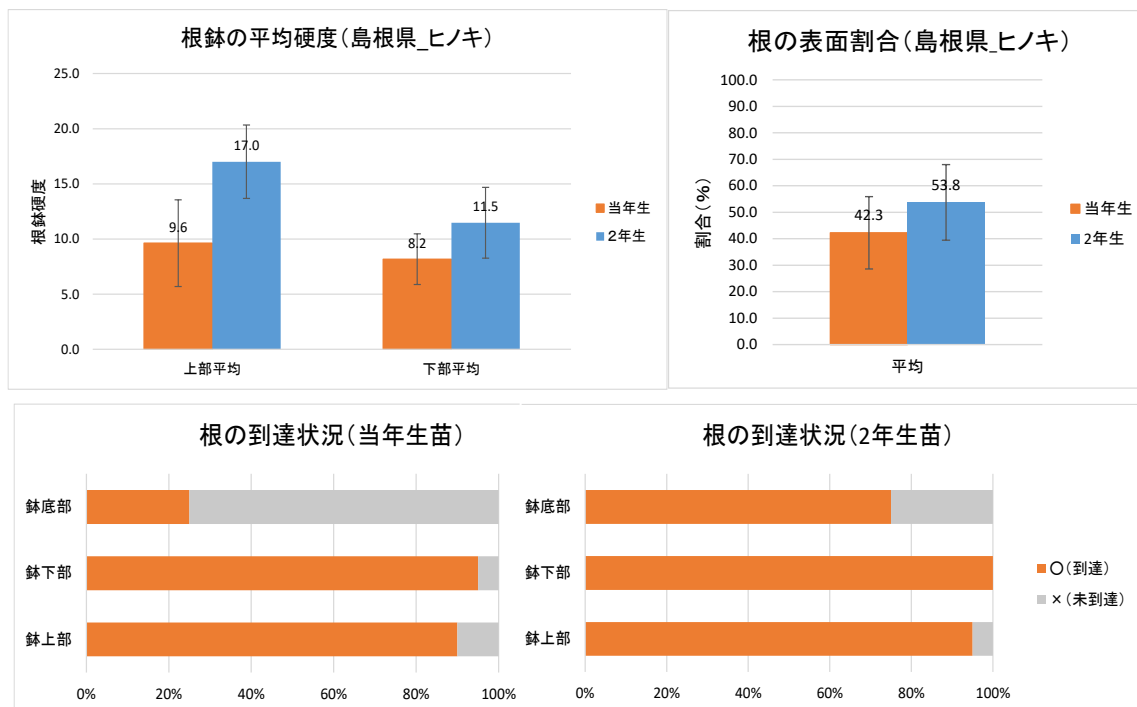


図 3-2 5 根鉢の計測結果 (島根県\_ヒノキ)



根系の写真は、調査開始当初には撮影していなかった。

写真 3-14 島根県ヒノキ当年生苗の状況



根系の写真は、調査開始当初には撮影していなかった。

写真 3-15 島根県ヒノキ2年生苗の状況

### 3-2-4. 苗木のサンプリング調査結果（カラマツ）

#### （1）北海道カラマツ①（当年生苗・2年生苗）

調査実施年度	令和2（2020）年度
生産者	A氏（当年生苗、2年生苗）
植栽場所	北海道千歳市西森、北海道岩見沢市

北海道カラマツ①の苗木については、根鉢の崩れを防止する等の目的から、生分解性不織布のシートをコンテナ容器と併せて使用していた。なお、計測はシートを剥がして実施した。

#### 【地上部の計測結果】

平均苗長、平均根元径ともに当年生苗の方が2年生苗より小さい値を示したが、平均根元径については当年生苗で4.5mm、2年生苗で約4.9mmと差は大きくなかった。平均形状比は当年生苗の方が2年生苗より小さく、2年生苗は100を超えていた。

表 3-13 計測結果（北海道\_カラマツ①）

		当年生苗	2年生苗
標本数（本）		20	20
苗長 （cm）	平均	39.9	55.3
	標準偏差	2.9	5.3
	最大値	45.5	63.2
	最小値	32.5	45.1
根元径 （mm）	平均	4.5	4.9
	標準偏差	0.6	0.6
	最大値	6.2	6.4
	最小値	3.6	3.6
形状比	平均	89.6	113.5
	標準偏差	12.9	16.6
	最大値	109.0	145.3
	最小値	60.7	81.9

※北海道山林種苗協同組合が定めた北海道におけるカラマツコンテナ苗（1号苗、2号苗）の規格を、参考に記載する。

《出荷規格》	
コンテナ：	150cc
1号苗：	苗長 30cm 上 根元径 5mm 上
2号苗：	苗長 25cm 上 根元径 4mm 上

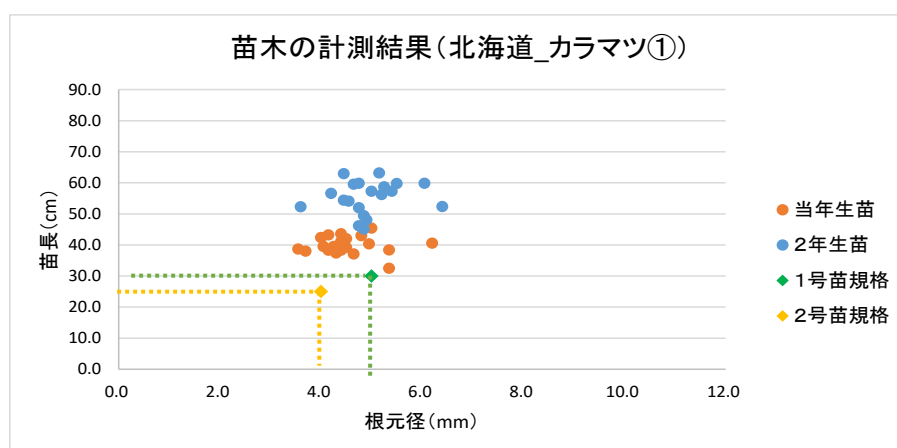


図 3-26 計測結果（北海道\_カラマツ①）



### 【絶乾重量の計測結果】

当年生苗と2年生苗の各部位の重量（絶乾重）及びT/R率（地上部と根の重量比）を比較した。当年生苗のT/R率は1.7、2年生苗のT/R率は1.9となり、当年生苗と2年生苗ではほぼ差は無かった。

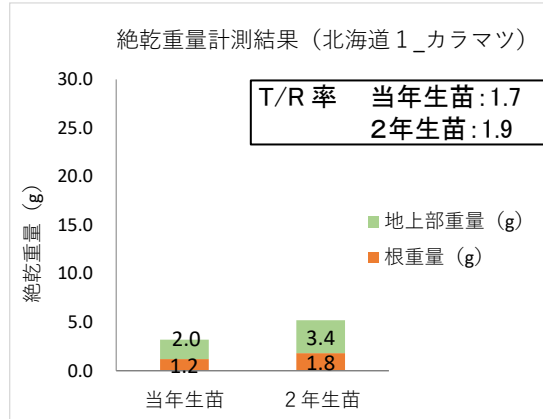


図 3-27 絶乾重量計測結果 (北海道\_カラマツ①)

### 【根鉢の計測結果】

根鉢の硬度と根鉢に占める根の平均被覆率を根鉢形成の指標として、当年生苗と2年生苗を比較した。根鉢下部の硬度は2年生苗で10を超えていたものの、根鉢上部の硬度はどちらも低かった。根の被覆率は当年生苗で9.4%、2年生苗で21.0%とどちらも低く、特に当年生苗では根鉢の形成が不十分であることが分かった。

なお、根鉢表面の白根は、当年生苗ではほとんどの苗木に見られたものの、2年生苗ではほとんど見られなかった。

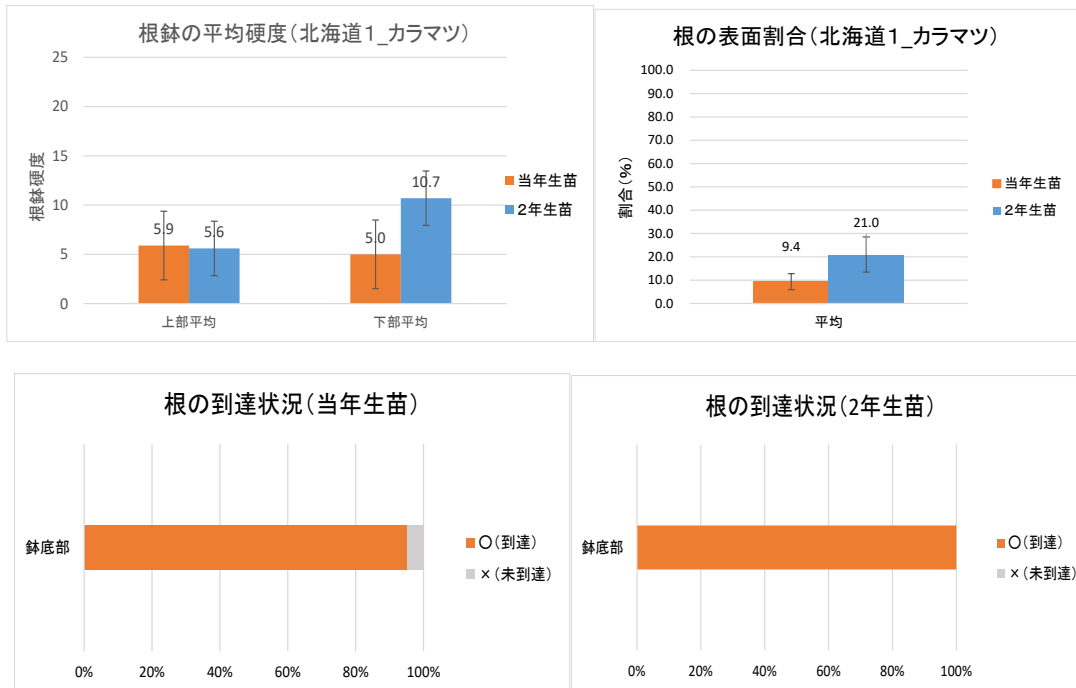


図 3-28 根鉢の計測結果 (北海道\_カラマツ①)



写真 3-16 北海道カラマツ①当年生苗の状況



写真 3-17 北海道カラマツ①2年生苗の状況

(2) 北海道カラマツ② (当年生苗・2年生苗)

調査実施年度	令和2(2020)年度
生産者	B氏(当年生苗、2年生苗)
植栽場所	—

北海道カラマツ②の苗木については、北海道カラマツ①と同様に生分解性不織布のシートをコンテナ容器と併わせて使用していた。なお、計測はシートを剥がして実施した。

【地上部の計測結果】

平均苗長は当年生苗の方が小さかった一方で、ばらつきはあるものの平均根元径は当年生苗の方が2年生苗より僅かに大きい値を示した。平均形状比は当年生苗の方が2年生苗より小さく、2年生苗は100を超えていた。

表 3-14 計測結果 (北海道\_カラマツ②)

		当年生苗	2年生苗
標本数(本)		20	20
苗長 (cm)	平均	37.1	53.2
	標準偏差	3.3	5.8
	最大値	42.2	63.3
	最小値	31.4	43.8
根元径 (mm)	平均	5.3	5.0
	標準偏差	0.7	0.7
	最大値	7.2	6.5
	最小値	4.3	3.3
形状比	平均	70.7	107.4
	標準偏差	8.3	18.7
	最大値	89.2	165.8
	最小値	49.9	75.5

※北海道山林種苗協同組合が定めた北海道におけるカラマツコンテナ苗(1号苗、2号苗)の規格を、参考に記載する。

《出荷規格》	
コンテナ:	150cc
1号苗:	苗長 30cm 上 根元径 5mm 上
2号苗:	苗長 25cm 上 根元径 4mm 上

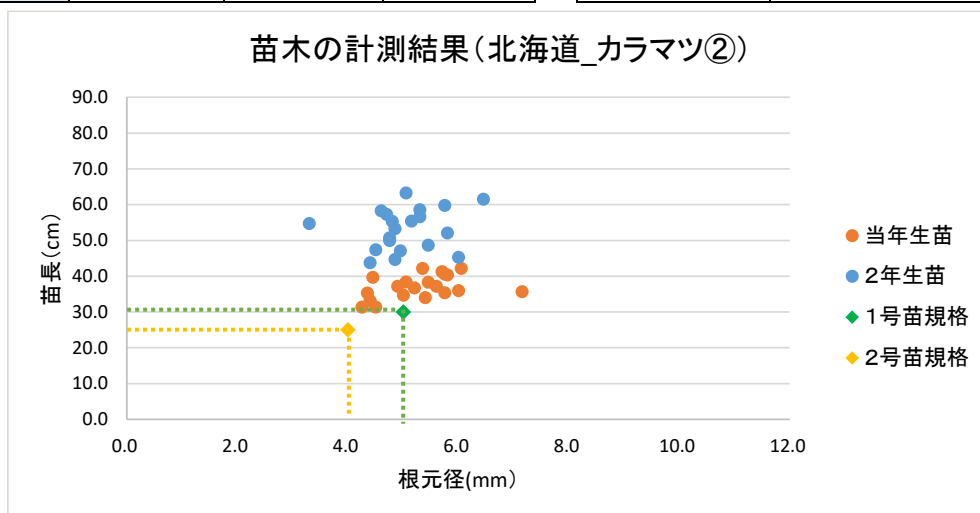


図 3-29 計測結果 (北海道\_カラマツ②)

### 【絶乾重量の計測結果】

当年生苗と2年生苗の各部位の重量（絶乾重）及びT/R率（地上部と根の重量比）を比較した。当年生苗のT/R率は1.8、2年生苗のT/R率は2.2となり、当年生苗の方が僅かに低い値を示した。

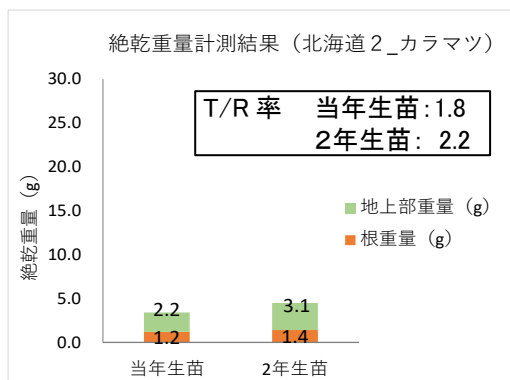


図 3-30 絶乾重量計測結果 (北海道\_カラマツ②)

### 【根鉢の計測結果】

根鉢の硬度と根鉢に占める根の平均被覆率を根鉢形成の指標として、当年生苗と2年生苗を比較した。特に根鉢下部の硬度が極めて低く、当年生苗、2年生苗ともに1を切っていた。根鉢上部の硬度が当年生苗の方が大きかった要因は不明だが、生分解性シートの影響が考えられた。根の被覆率は当年生苗、2年生苗ともに非常に低く、どちらも5%程度だった。根の到達状況については、どちらも展開が不十分だった。以上より、当年生苗、2年生苗ともに根鉢が十分に形成されていないことが分かる。

なお、根鉢表面の白根は、当年生苗と2年生苗どちらもほとんど見られなかった。

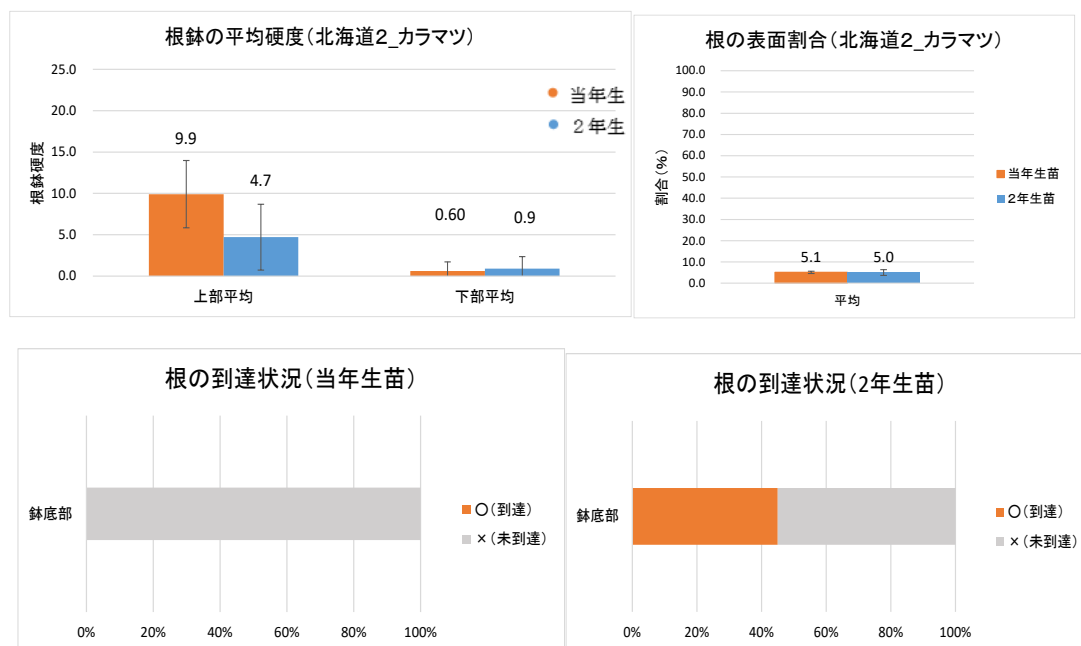


図 3-31 根鉢の計測結果 (北海道\_カラマツ②)

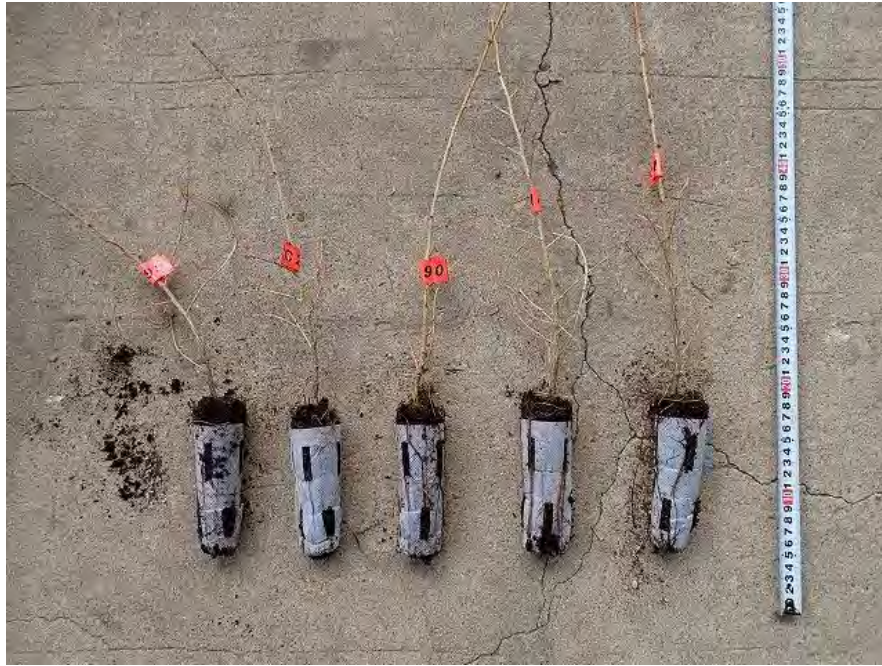


写真 3-18 北海道カラマツ②当年生苗の状況



写真 3-19 北海道カラマツ②2年生苗の状況

(3) 北海道カラマツ③ (当年生苗・2年生苗)

調査実施年度	令和3(2021)年度
生産者	A氏(当年生苗、2年生苗)
植栽場所	北海道千歳市千歳

北海道カラマツ③については、令和2(2020)年度に北海道カラマツ①を生産した生産者が、令和3(2021)年度に生産した苗木である。前年度と同様に、根鉢の崩れを防止する等の目的から生分解性不織布のシートをコンテナ容器と併せて使用していた。なお、計測はシートを剥がして実施した。

【地上部の計測結果】

平均苗長、平均根元径ともに当年生苗の方が2年生苗より小さい値を示したが、平均苗長は当年生苗で39.3cm、2年生苗で約41.1cmとなった。また平均根元径については当年生苗で3.9mm、2年生苗で約4.4mmとなり、当年生苗と2年生苗の大きさはほとんど変わらなかった。平均形状比は、当年生苗の方が2年生苗よりわずかに大きくなった。

表 3-15 計測結果 (北海道\_カラマツ③)

		当年生苗	2年生苗
標本数(本)		20	20
苗長 (cm)	平均	39.3	41.1
	標準偏差	2.5	4.2
	最大値	46.1	51.2
	最小値	35.2	34.9
根元径 (mm)	平均	3.9	4.4
	標準偏差	0.4	0.7
	最大値	4.6	6.4
	最小値	3.0	3.1
形状比	平均	100.9	95.8
	標準偏差	8.5	17.0
	最大値	119.6	144.2
	最小値	84.4	74.2

※北海道山林種苗協同組合が定めた北海道におけるカラマツコンテナ苗(1号苗、2号苗)の規格を記載する。

《出荷規格》	
コンテナ:	150cc
1号苗:	苗長 30cm 上 根元径 5mm 上
2号苗:	苗長 25cm 上 根元径 4mm 上

苗木の計測結果 (北海道カラマツ③)

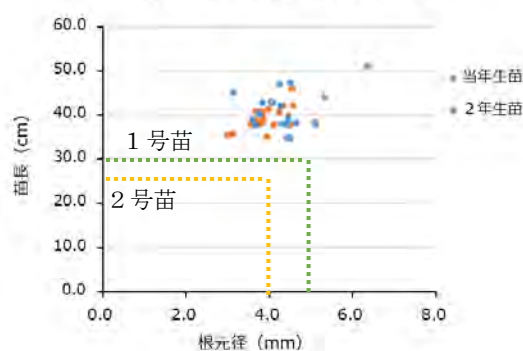


図 3-3 2 計測結果 (北海道\_カラマツ③)

### 【絶乾重量の計測結果】

当年生苗と2年生苗の各部位の重量（絶乾重）及びT/R率（地上部と根の重量比）を比較した。地上部の重量は大きく変わらなかったものの、当年生苗の根の重量は2年生苗の半分近くだった。その結果、当年生苗のT/R率は3.5、2年生苗のT/R率は2.3となり、当年生苗のT/R率が大きくなっている。

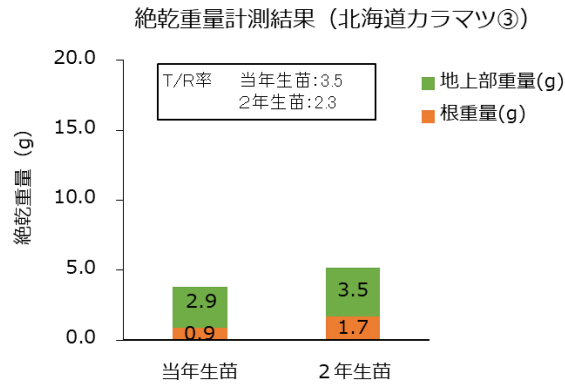


図 3-3 3 絶乾重量計測結果（北海道\_カラマツ③）

### 【根鉢の計測結果】

根鉢の硬度と根鉢に占める根の被覆率を根鉢形成の指標として、当年生苗と2年生苗を比較した。当年生苗は根鉢の硬度と根の被覆率がどちらも非常に低く、また根鉢の底部にまで根系が到達していないことから、根鉢の形成が不十分であることが分かった。

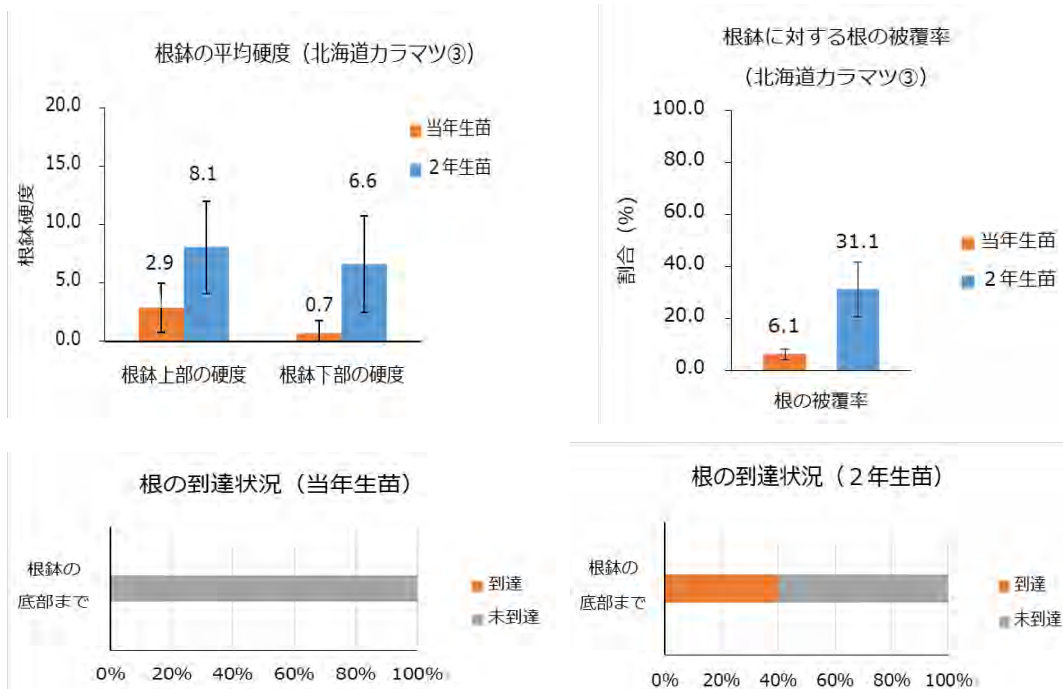


図 3-3 4 根鉢の計測結果（北海道\_カラマツ③）



写真 3-20 北海道カラマツ③当年生苗の状況



写真 3-21 北海道カラマツ③2年生苗の状況



(4) 宮城県カラマツ① (当年生苗・2年生苗)

調査実施年度	平成 30 (2018) 年度
生産者	E 氏 (当年生苗)、F 氏 (2年生苗)
植栽場所	宮城県気仙沼市

【地上部の計測結果】

当年生苗と2年生苗はそれぞれ違う種苗生産者によって生産されたため直接的な比較はできないものの、参考値として計測値を比較した。平均苗長、平均根元径ともに当年生苗の方が2年生苗より小さい値を示し、特に平均苗長について差が大きかった。平均形状比は当年生苗で57.6と低い値だった。

表 3-16 計測結果 (宮城県\_カラマツ①)

		当年生苗	2年生苗
標本数 (本)		30	43
苗長 (cm)	平均	28.1	64.1
	標準偏差	4.7	6.4
	最大値	37.0	76.2
	最小値	20.9	50.0
根元径 (mm)	平均	4.9	7.4
	標準偏差	0.9	1.0
	最大値	6.3	10.9
	最小値	3.2	5.5
形状比	平均	57.6	88.1
	標準偏差	7.4	13.0
	最大値	70.8	113.7
	最小値	42.7	54.3

《出荷規格》	
コンテナ :	150cc
2年生苗 :	苗長 35cm 上、 根元径 3.5mm
当年生苗 :	苗長 20cm 上 根元径 : なし

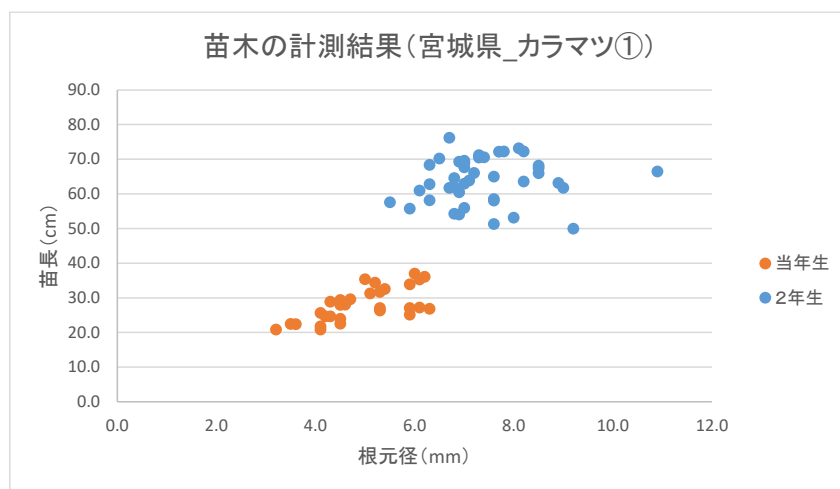


図 3-35 計測結果 (宮城県\_カラマツ①)

### 【絶乾重量の計測結果】

参考値として当年生苗と2年生苗の各部位の重量（絶乾重）及びT/R率（地上部と根の重量比）を比較した。当年生苗のT/R率は0.9、2年生苗のT/R率は2.0となり、当年生苗の方が低い値を示した。

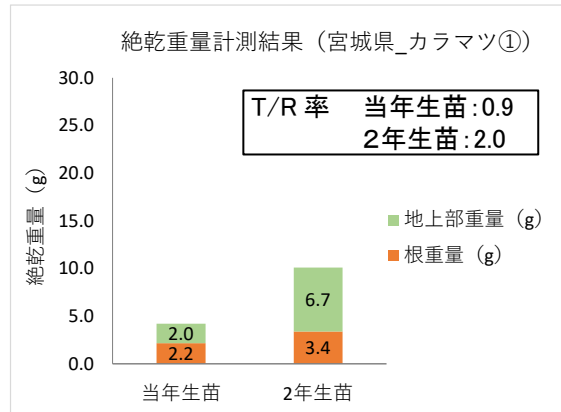


図 3-36 絶乾重量計測結果 (宮城県\_カラマツ①)

### 【根鉢の計測結果】

根鉢の硬度和根鉢に占める根の平均被覆率を根鉢形成の指標として、当年生苗と2年生苗を比較した。当年生苗の根鉢硬度は上部、下部ともに10を下回っており、2年生苗と比較して小さかった。当年生苗の根の被覆率は約13%と2年生苗より大きく下回った。当年生苗の根の到達状況については、根鉢下部と上部、底部いずれも十分ではなかった。以上より、当年生苗の根鉢は十分に形成されていないことが分かる。

なお、根鉢表面の白根は、当年生苗と2年生苗の全てで見られなかった。

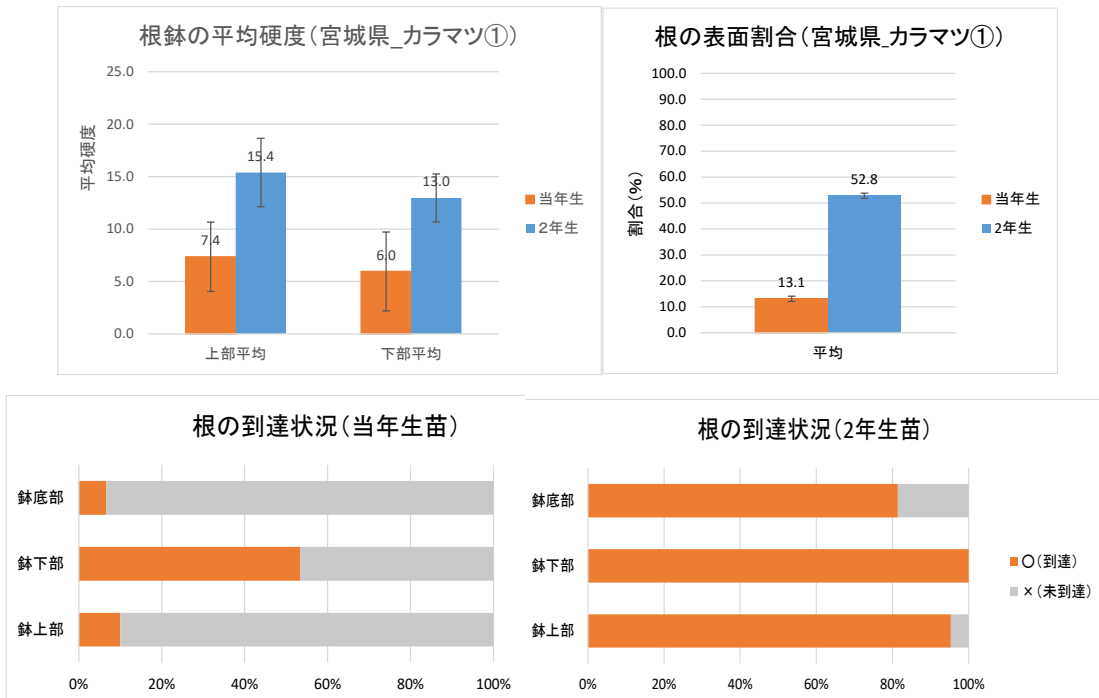


図 3-37 根鉢の計測結果 (宮城県\_カラマツ①)

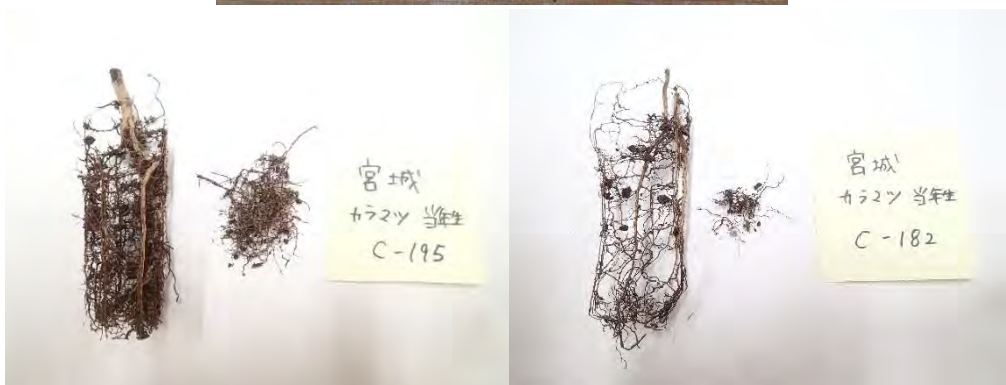


写真 3-2 2 宮城県カラマツ①当年生苗の状況



写真 3-2 3 宮城県カラマツ①2年生苗の状況